

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第3回理事会 開催日：9月19日。出席者：中野会長
ほか30名。

報告事項

1. 第2回理事会議事録確認
2. 編集委員会報告
3. 企画委員会報告
4. 研究委員会報告
5. 真空冶金国際会議指定寄付金承認報告
47年8月15日付大蔵省公示第115号をもって承認
6. 日本学術会議材料研連強度と破壊分科会委員候補
推薦報告

候補 荒木 透 理事 (東大)

7. 原子力部会報告

大型プロジェクト「高温還元ガス利用による直接製鉄法に関する研究」について

協議事項

1. ヘンダーソン賞受賞者決定の件
高張力鋼の変態組織と靱性
住友金属工業 大谷泰夫, 寺崎富久長, 邦武立郎
「鉄と鋼」第58年第3号 p. 434~451
“Trans ISIJ” Vol. 12, No 3, p. 217~222
以上決定
2. 秋季講演大会役員業務分担の件
3. 東南アジア鉄鋼協会に関する件
4. 昭和47年6~8月中入退会その他会員異動の件
5. 昭和47年度第2四半期予算実績対照表検討の件
6. 編集委員の委嘱・解嘱が次のように決定した。
編集委員委嘱解嘱について (敬称略)

1. 委 嘱

1) 新 任

石川英次郎 (特殊製鋼 技研)
内山 郁 (金材技研)
大橋 延夫 (川鉄 技研)
神馬 敬 (東工大 機械)
木下 修司 (神鋼 中研)
相馬 胤和 (東大 冶金)
永井 潤 (川鉄 設備計画部)
南雲 道彦 (新日鉄 基礎研)
松田 一敏 (鋼管 技研)
満岡 正彦 (川鉄 技術開発部)
山岸 秀久 (鋼管 技研)

2) 再 任

井形 直弘 (東大 冶金)
氏家 信久 (石播 技研)
鎗木 俊郎 (鋼管 技研)
川村 和郎 (新日鉄 製品技研)
邦武 立郎 (住金 中研)
後藤 和弘 (東工大 金属)
阪部喜代三 (日鋼 本社)
中川 龍一 (金材技研)

中村 正久 (東工大 金属)
西村 富隆 (日特)
細井 祐三 (新日鉄 基礎研)
村治 敏明 (大同 東京)
山崎 道夫 (金材技研)
吉谷 豊 (新日鉄 電気計装部)
若松 茂雄 (トピー)

3) 担当追加

根本秀太郎 (鋼管技研)
近藤 嘉一 (東洋鋼板 綜研)

2. 解 嘱

阿部 秀夫 (東大 冶金)
岡部 俠児 (川鉄 技研)
高橋 俊雄 (大同 中研)
原 善四郎 (東大 生研)
藤田 利夫 (東大 生研)
藤田 達 (神鋼 中研)

企 画 委 員 会

第4回委員会 開催日：9月14日。出席者：吉田委員長、ほか19名。

(1) 協会事業アンケートの件

協会の今後の活動方針の参考とするため、関係各位にアンケートをお願いするが、各活動のアンケート内容の検討を行なった。

(2) 東南アジア鉄鋼協会に関する件

田畑専務より9月初旬にインドネシアで開催された理事會および今後のスケジュールの報告があつた。これに関連して国際鉄鋼技術委員会に IISI 以来東南アジア、ILAFA, UNIDO などの問題ごとに担当委員をおき必要があればワーキンググループを設けることを決定した。

(3) 昭和48年度予算編成方針に関する件

事業規模を47年並みにして要求案を10月末までに関係各位より提出願うことになった。

研 究 委 員 会

第3回委員会 開催日：9月8日。出席者：盛委員長ほか18名。

下記項目について審議あるいは報告を行なった。

1. 技術講座小委員会報告

西山記念技術講座の報告、予定も併せて説明された。

2. 「金属研究の将来計画」提出の件

3. 基礎共同研究会新テーマの件

再アンケートの結果、小委員会を構成し3テーマに絞つた。さらに、各テーマについて打合せを行なったので内容を付して、協会案として基共研運営委員会へ提案することとなつた。

4. 科学技術庁委託研究の件

「各種環境下における鉄鋼構造物の破壊防止に関する総合研究」というテーマで現在申請中であるが、経過報告を行なった。

5. 第一回石原・浅田研究助成金選考の件

今年度より発足した当助成金は8月末で締切られ、5件交付に対し24件の交付申請があり、研究委員会で選考小委員会を発足させ、10月末までには選考結果を特別資金運営委員会に報告する。

編集委員会

第7回和文会誌分科会 開催日：9月8日。出席者：

田中主査，ほか21名。

1. 15件の論文審査報告があつた。
2. 鉄と鋼第59年第2号に論文12件，技術報告3件，技術資料1件，委員会報告1件を選定した。
3. 技術資料2件，書評4件を依頼することになった。

第7回欧文会誌分科会 開催日：9月25日。出席者：

中村正久幹事，ほか4名。

1. 5件の論文につき審査報告がなされた。
2. 「鉄と鋼」58年10号より5件の論文につき投稿を勧誘することとなった。

共同研究会

第30回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日：8月22

日。出席者：宮本主査直属幹事，ほか10名。

1. 第2回共同実験追加第2回 Fe-Mo-C 系について
 - (1) 自発検討結果
 - (2) 共同実験（追加第2回）結果
 - (3) 今後の方針の検討
2. 第3回共同実験（Fe-W-C系）
 - (1) 自発検討結果
 - (2) 共同実験（追加第1回）結果
 - (3) 今後の進め方
3. 第4回共同実験（Fe-Nb-C系）
4. 自発研究の発表

参加人数11人と少数ではあるが、内容の豊富な分科会となった。

第51回計測部会 開催日：7月12～13日。出席者：野

坂部会長，ほか97名。

1. あいさつ
野坂部会長，新日鉄君津製鉄所後藤設備部長
2. 小委員会報告
 - (1) 「X線厚さ計」小委員会の最終報告とテストピース推奨案が鈴木主査から発表された。
 - (2) また「保全に関する教育」および「放射線温度計」小委員会の発足・中間報告が行なわれた。
3. 研究発表（自由議題）

(1) 製鉄関係の計測	5件
(2) 製鋼関係の計測	2件
(3) 圧延関係の計測	4件

- (4) 製品検査のための計測 2件
- (5) 計測技術の改善研究・新技術新製品 6件
- (6) 計測器の検査保全上の問題 3件
- (7) その他 2件

4. 共通議題

「環境管理の計測に関するアンケート」を全23事業所から提出し、幹事会で研究の方向をまとめることとなった。

5. 工場見学

新日鉄・君津製鉄所 熱延工場および厚板工場を見学した。

第32回秤量分科会 開催日：6月28～29日。出席者：

中沢主査，ほか45名。

1. あいさつ
(1) 中沢主査 (2) 新日鉄室蘭製鉄所柏倉設備部長
2. 共通議題

「電子式秤量機に関するアンケートに関して、全25事業所から設置状況と問題点について報告され、質疑を行なった。今後小委員会を設けてまとめることとなった。

3. 研究発表（自由議題）

(1) 大型秤量機の検査法について	3件
(2) 原料荷揚の秤量関係	3件
(3) 製鋼関係の秤量	1件
(4) 圧延関係の秤量	1件

4. 工場見学

新日鉄・室蘭製鉄所の焼結工場を主体に工場見学を行なった。

第6回圧延設備分科会 開催日：6月22～23日。出席

者：矢野部会長，上山主査ほか・80名。

1. あいさつ
所矢野部会長，上山主査，神戸製鋼所神戸製鉄所菅野長

2. 研究発表
線材関係の設備のアンケート資料まとめと研究結果の発表・討議を行なった。

- (1) 巻線機
- (2) ロールネックベアリングの構造と潤滑について
- (3) カップリングとスピンドル
- (4) シャー
- (5) スタンドおよび組替装置
- (6) 線材クーリングラインについて

3. 工場見学
(株) 神戸製鋼所神戸製鉄所第4・5・7線材工場を見学した。

4. 次回開催
次回は分塊設備関係とし、今秋、住友金属・鹿島で開催する。

第10回原子力部会 開催日：6月日。出席者：池田部

会長，ほか35名。

1. 各小委員会報告

- (1) 第2小委員会 (流動層WG活動経過)
- (2) 第3小委員会 (製鉄用高温原子炉評価WGの活動経過ならびに今後の方針)
- (3) 第4小委員会 (「高温熱交換器の検討—中間報告Ⅰ」の概要説明)
- (4) 第5小委員会 (第9回第5小委員会以降の活動経過ならびに今後の方針)

2. 部会の今後の方針について

部会として今後検討すべき事項として

- (1) 耐熱材料 (金属, 非金属) の研究開発
- (2) 製鉄パターンへの再検討
- (3) 大型プロジェクトの次の段階としての研究開発について

の3点について討議が行なわれ, (2)および(3)の問題については, 今後システム小委員会で検討を進めることとした。

.....

第24回原子力部会第4小委 開催日: 6月29日. 出席者: 森委員長, ほか22名.

1. 第10回原子力部会報告
2. 高温熱交換器の研究開発計画
熱交換量 1MWt の 験実ループを中心とした高温熱交換器の研究開発計画に関して報告ならびに討議が行なわれた。
3. 超耐熱合金および断熱耐火材料の開発計画
上記高温熱交換器に用いられる超耐熱合金および断熱耐火材料の研究開発計画について報告が行なわれた。
4. ASME, Code Sec. III の解説
高温熱交換器の設計 Code を考えていくための手がかりとして, ASME Code Sec. III について解説ならびに討議が行なわれた。
5. 次回予定
昭和47年8月10日.

標準化委員会

第53回幹事会 開催日: 7月5~6日. 出席者: 木下幹事長, ほか15名.

1. 標準化全国大会の講演テーマ
10月開催の標準化全国大会に発表する鉄鋼業界のテーマとして“環境保全と標準化”を選定し, 日本鋼管に依頼した。さらに47年度JIS優良工場からも1件発表することにした。
2. SI ユニットの JIS への採用
ISO では IS ユニットの全面的に採用していることから, JIS 鉄鋼材料も JIS ユニットの従来単位との併記採用を進めることにした。
3. 工場見学
トヨタ自動車工業(株)の上郷工場(エンジン)および元町工場(車体)を見学し, さらに鉄鋼材料規格に対する意見交換を行なった。

第54回標準化委員会幹事会 開催日: 8月31日. 出席者: 木下幹事長, ほか13名.

1. SI ユニットの JIS に併記採用するための方策

2. 47年度原案委託進捗状況報告および幹事会社の選出

3. 冷間加工鋼材の機械的性質を規定化するための分科会設置の検討

4. 各社ブランドの JIS への切替へ

5. ISO/DIS の回答方式の変更

6. 標準化全国大会報告

.....

第2回 TC 67 分科会 開催日: 9月4日. 出席者: 桑原主査, ほか7名.

1. 国際会議報告

5月29日~6月2日開催された TC 67(石油工業, 天然ガス工業用の材料および装置) および TC 67/SC 1 (ラインパイプ) TC 67/SC 5 (ケーシング, チュービング, ドリルパイプ) の会議報告が行なわれた。

2. ISO/DIS 2644 の審議

DIS 2644 (石油, 天然ガス用ドリルパイプ) について審議し, 条件付賛成で回答することになった。

.....

第9回 SC 3 分科会 開催日: 9月19日. 出席者: 青木主査ほか8名.

1. ISO/R 630 (構造用鋼), 高降伏点鋼板・高降伏形鋼の各第2次原案の検討を行ない, 日本コメント素案の作成を行なった。

2. 12月5日~8日開催の第3回 TC 17/SC 3 会議の派遣会社についての協議を行なった。

.....

第25回 SC 4 分科会 開催日: 8月31日. 出席者: 清水主査, ほか9名.

1. 工具鋼コメントの作成

熱間加工用工具鋼, 冷間加工用工具鋼, 高速度工具鋼についてコメント案の検討を行なった。

2. フックおよびチェーン用鋼

現在 ISO でも未審議であるフック用鋼, チェーン用鋼に対する ISO/TC 111 国内委員会との協同審議についての対策協議を行なった。

.....

第21回ISO鉄鋼部会 SC12 分科会

開催日: 6月27日. 出席者: 三佐尾主査, ほか7名.

1. 国際会議出席報告

ISO/TC17/SC12 第5回会議 (於ロンドン) 報告が行なわれ, つぎの4規格が審議終了した旨説明があつた。

○一般用・絞り用熱延鋼板

○一般用・絞り用冷延鋼板

○リロール用熱延コイル

○一般用・絞り用・ロックフォーム用亜鉛鉄板

2. 上記4規格に対する最終意見のとりまとめを行なった。

.....

第1回 SC15 分科会 開催日: 9月7日. 出席者: 青木主査, ほか6名.

ISO/TC17/SC 15 (レール) の幹事から要求のあつたレールおよび付属品に関する文献など参考資料の提出に

ついて検討し、レールおよび継目板の英文 JIS を送付することにした。

.....
第43回普通鋼分科会 開催日：9月6日。出席者：青木主査ほか16名。

1. JIS 見直し
 G3131, G3132, G3112, A5528 の見直し検討を行なった。とくに鋼矢板については鋼管形矢板と圧延矢板の分離が問題となった。
2. ボイラ用鋼板
 すでに答申済のボイラ用鋼板について改正原案を作成することになった。

.....
第35回特殊鋼分科会 開催日：6月30日。出席者：西主査、ほか24名。

自工会材料部会技術分科会との第2回目の合同会議を行ない、JIS 改正点に対する意見調整を行なった。

- ① 冷間加工材の機械的性質
 データを検討するに当たり減面率などの標準条件を提示願うことにした。

- ② SCM25H の記号
 JIS 記号の付け方のルールに従い SCM 25H として規格化するが、記号体系を炭素量表示に改めるよう工技院へ接渉する

- ③ SCr4H の焼入性バンド
 提案通り認められた。
- ④ SNCM23Hの焼入性バンド
 両者間に若干の譲歩があり、焼入端から 3 mm, 5 mm 7 mm の数値が修正された。

.....
第1回薄鋼板に関する規格体系調査分科会
 開催日：8月29日。出席者：三佐尾主査ほか、15名。

1. 薄鋼板製品の各社実態調査を行ない、現状の説明が行なわれた。
2. 薄鋼板の調査対象について検討し、寸法的な事項は除外したが、熱延鋼板・冷延鋼板のほか、表面処理鋼板までを調査対象とした。
3. 薄鋼板に関する外国規格を調査することにした。

第2回リラクセーション試験方法規格原案作成分科会
 開催日：8月30日。出席者：大南主査ほか、16名。

本年度工業技術院より委託の試験方法規格原案作成のため審議を行なった。

1. 金属材料のリラクセーション試験方法規格原案作成作業の進捗状況について
 幹事会で2回にわたり作業が行なわれた結果が議事録を基にその概要が説明され、とくに問題点として討議された①適用範囲と②項目別に関しては素案どおり了承された。

2. 同上規格案作成のための問題点並びに事項別の整理について

各事項別の素案については、幹事会案を基に審議が行なわれたが再検討を要するものとして次の事項が上げられ、十分に本分科会の意見を幹事会に反映することとした。

- ② 用語と定義について(4)伸び、(5)全ひずみ、
- ③ 試験片、④-1 試験機、④-2 加熱装置に関し長さ荷重精度、温度の許容範囲の再検討など。

材料研究委員会

第3回委員会 開催日：9月18日。出席者：大竹委員長ほか、12名。

日本製鋼室蘭研究所で開催した。共通試料を用いた焼戻し脆性に関する共同研究の第1回中間報告を中心に議事を進めた。

1. 共同研究の中間報告
 6鋼種の共通試料と各社における比較材を用いて分担ごとに、焼入れ組織・微視組織の違いによる脆化特性の違い。さらに脆化特性のオーステナイト粒度依存性に関し、進捗状況報告ならびに今後の進め方の打合せを行なった。

2. 研究所見学
 室蘭研究所の見学ならびに質疑応答を行なった。
3. FIMについて
 研究の関連技術としてフィールドイオンマイクロスコープに関する講演を北大触媒研の石塚先生にしていた。

新 入 会 員 氏 名

(昭和47年 6 月 1 日~ 6 月30日)

鬼塚 新	正 会 員	勉日本製鉄(株)	清水 重雄	日立造船(株)	伊藤 和直	〃	〃
四戸 敬昭	〃	〃	白井 隆	東京工業大学	谷平 憲正	〃	工学部金属工学
西鶴 誠一	〃	〃	水野 兼雄	資源化学研究所	佐々木真敏	鉄鋼短期大学	鉄鋼工学
馬場 政光	〃	八幡製鉄所	中尾 和祺	大阪電気通信大学講師	高橋 義治	〃	〃
雪田 克彦	〃	名古屋製鉄所	赤川 二雄	関西大学工学部	東風平玄俊	〃	〃
藤沢 和郎	〃	工作本部	石井 輝彦	金属工学科助手	平賀 紀幸	〃	〃
吉田 成	〃	川崎製鉄(株)	上村 源也	石川島芝浦機械(株)	橋本 隆一	〃	〃
三代 祐嗣	〃	千葉製鉄所	志摩 享	日本高級金属工業(株)	鎌田 明博	日本大学大学院	生産工学研究科
岩崎 均	〃	〃	西岡 義夫	和気耐火工業(株)	鶴羽 正敏	〃	〃
莊野 保之	〃	技術研究所	山地 巖	住友重機械工業(株)	平野 勝巳	〃	〃
貞頼 捷雄	〃	葺合工場	久松 公	日本重化学工業(株)	吉沢 広	〃	〃
小原 隆史	〃	千葉製鉄所	西山 節夫	土佐電気製鋼所	山内 隆	京都大学大学院	冶金学専攻
柳沢 民樹	〃	特殊製鋼(株)	烏越 猛	〃	広内 鉄也	〃	金属材料研究室
加藤 正文	〃	〃	横山 憲夫	早稲田大学理工学部	南雲 博	東北大学大学院	工学研究科
尾山 収二	〃	〃	楠 信治	金属工学科	笹田 隆志	〃	〃
田淵 省三	〃	〃	菊地 良輝	〃	木村 博	〃	金属材料研究所
甲川 忠男	〃	大同製鋼(株)	木口 昭二	〃	佐々木一郎	千葉工業大学工学部	金属工学科
大塚 孝史	〃	星崎工場	川上 博	〃	徳久 正昭	〃	〃
相場 彰史	〃	知多工場	狩野 武紀	〃	林 徹男	芝浦工業大学大学院	工学研究科
小川 恒司	〃	築地工場	池田 克己	〃	高橋 謙治	東京大学工学部	冶金学科
池田 辰雄	〃	(株)神戸製鋼所	小野 寛	〃	中村 秀樹	愛媛大学工学部	冶金学科
別所 勇	〃	神戸製鉄所	杉本 公利	〃	宗木 政一	千葉工業大学工学部	金属工学科
川崎 清	〃	中央研究所	塩原 融	〃	白根 義宣	関東学院大学工学部	機械科
岩瀬 耕二	〃	日本鋼管 技術研究所	沢井 秀夫	〃	家田 幸治	名古屋大学工学部	金属科
鴨志田 友男	〃	〃	篠原 薫	〃	高山 博和	関西大学工学部	金属工学科
浜口 元信	〃	〃	坂上 健一	〃	佐藤富久男	千葉工業大学工学部	金属科
小泉 良雄	〃	東伸製鋼(株)	吉田 俊明	〃			
布川 剛	〃	〃	遠藤 豪士	〃			
手代木 邦雄	〃	姫路製鋼所	小松 修	〃			
古賀 芳昭	〃	住友金属工業(株)	南 衛	〃			
小林 芳夫	〃	鹿島製鉄所	山県 千里	〃			
	〃	(株)日本製鋼所	西辻 泰生	〃			
	〃	室蘭製作所	矢野 展吉	〃			
	〃	三菱製鋼(株)		〃			
	〃	広田製鋼所		〃			
	〃	日新製鋼(株)		〃			
	〃	呉製鉄所		〃			

外 国 会 員

Mr. Joaquim Inacio (Brasil)

(昭和47年 7 月 1 日~ 7 月31日)

井上 哲	正 会 員	新日本製鉄(株)	田中 智夫	川崎製鉄(株)	長畑 保正	(株)吾嬬製鋼所
住友 秀彦	〃	〃	今中 拓一	〃	上田 浩	千葉製造所
長野 修二郎	〃	光製鉄所	石井 正武	〃	浅川 基男	〃 条鋼工場
堀沢 滋	〃	〃	二田 征作	〃		住友金属(株)
中村 敏雄	〃	名古屋製鉄所	桜谷 和之	〃		中央技術研究所
山中 幹雄	〃	〃	北原 宣泰	〃		名古屋工業大
杉崎 孝継	〃	堺製鉄所	山本三津雄	〃		金属工学科教授
上野 正勝	〃	製品技術研究所	森 健造	〃		秋田大学鉱山学部
黒沢 文夫	〃	釜石製鉄所	福谷 隆	〃		冶金学科助手
原島 和海	〃	基礎研究所	富山 茂樹	〃		日本トムソン(株)
白沢 秀則	〃	〃	篠原 一雄	〃		技術研究所
山田 哲夫	〃	(株)神戸製鋼所	片桐 英雄	〃		日本国有鉄道
町田 正弘	〃	〃	岡 宗雄	〃		鉄道技術研究所
小出 憲司	〃	中央研究所	岡本 尚機	〃		明道金属(株)新鴻工場
木村 吉雄	〃	〃		〃		富士電波工業(株)
	〃	〃		〃		滋賀工場
	〃	〃		〃		石井鉄工所技術研究所

外丸利喜夫	千代田亜鉛工業(株) 製鋼課	上田 雅和	〃	〃	中島 敏洋	〃	〃
朝比奈敏勝	日本大学生産工学部 機械工学科	大沢 章治	〃	〃	中込 倫路	〃	〃
石飛 一徳	日新製鋼(株) 呉製鉄所	北乾 直	〃	〃	小川 裕	早稲田大学理工学部 金属工学科	
浜名 健次	久保田鉄工(株) 堺製造所	橋堂 忠	〃	金属科	西村 邦夫	〃	〃
平川 哲朗	トビー工業(株)	小林 勝弘	〃	〃	松原 英吾	〃	〃
A.L. BELL	英国鉄鋼公社	後藤 利幸	〃	金属科	塚越 邦夫	〃	大学院理工学研究
宮地 正美	岐阜工業高等専門学校 助手	島野 道夫	〃	〃	石田 雅司	九州大学工学部 鉄鋼冶金学科	
森下 猛	住友エール(株)製造課	中井 源司	〃	金属工学科	小林 一博	〃	〃
餘助 勝己	(株)桜井鉄工所 松尾工場	花田 憲三	〃	〃	一色 孝史	愛媛大学工学部冶金科	
横尾 幸雄	三菱化工機(株)研究部	星野たかし	〃	〃	河合 隆成	北海道大学大学院 工学研究科	
岡村 稔	宇部興産(株) 宇部鉄工所	本郷 清介	〃	〃	倉智 哲馬	大阪大学大学院冶金学 千葉工業大学	
	学 生 会 員	三宅 康之	〃	〃	土井 裕	〃	Ⅱ部金属工学
浅田 淑	大阪府立大学工学部 金属工学科	山田 良介	〃	〃			
		山村 英二	〃	〃			
		山本 武嗣	〃	〃			
		渡辺 英生	〃	〃			
		渡辺 益己	〃	金属科			
		渡辺 俊明	〃	名古屋大学工学部 金属鉄鋼科			
		佐藤 哲郎	〃	鉄鋼科			

外 国 会 員

鄭 章 勲 (大韓民国)
Dr. Pracheeshwar
S. Mathur (U.S.A)

(昭和47年8月1日~8月31日)

	正 会 員	富岡 敬之	神鋼鋼線工業(株)	新庄 英正	モービル石油(株) 福岡支店
大矢 清	新日本製鉄(株) 名古屋製鉄所	伊藤 雅夫	〃	清水 照光	日本スチール株
坂本 三生	〃	中村 憲	日立金属(株)安来工場	佐々木秀二	中央鉄工(株)
宿谷 巖	〃	村川 義行	〃	後藤 佐吉	東京大学工学部教授
田上 鼎	〃	鈴木 正一	〃	小森 正祐	日本金属工業(株) 研究室
平本 克房	〃	的場 祥行	住友金属(株) 中央技術研究所	国井 大蔵	東京大学工学部教授
奥山 祐治	〃 室蘭製鉄所	平川 賢爾	〃	岸本 義幸	(株)トーマン
中山 正章	〃	武田 砂夫	川崎製鉄(株) 技術研究所	内田 憲正	日立金属(株)安来工場
島田 昌治	〃 八幡製鉄所	新谷 宏隆	〃	宇佐美 正	秋田大学鉱山学部 助教授
山田 寛之	〃	岡田 亘右	日立研究所勝田分室		
武田鉄治郎	〃 製品技術研究所	横山 誠	光洋精工(株) 中央研究所	今本 勝之	山陽特殊製鋼(株) 学 生 会 員
山戸 一成	〃	宮崎 良忠	九州工業大学 金属加工学科	天野 和男	名古屋大学工学研究科 修士課程
加茂川喜郎	〃 堺製鉄所	三沢 俊平	東北大学金属材料研究 所	下川原直樹	千葉工業大学 第Ⅱ金属工学科
土屋 孝男	〃	福元 亮一	東洋鋼鉄(株)下松工場	浜小路正博	九州大学工学部 鉄鋼冶金
坂田 忠義	〃 広畑製鉄所	久松 定興	いすゞ自動車研究実験 部	福田 一	東京大学工学系大学院 冶金学修士課程
白井 洋行	〃 大分製鉄所	久松 佳世	〃	山本 優	東京都立大学工学部 機械工学科博士課程
前田 重義	〃 技術研究所	浜田 幾久	バブコック日立 (株)呉研究所	松本 義朗	大阪大学工学研究科 修士課程
桜井 義久	〃 基礎研究所	橋川 久司	住友金属工業(株)		
平田 健一	日本鋼管(株) 福山製鉄所	野村 幸平	神鋼電機(株)伊勢工場		
竹原準一郎	〃	富家 将之	三菱金属鉱業 生野製作所		
山岸 秀久	日本鋼管(株) 技術研究所				
原田 晶洋	日新製鋼(株) 周南製鋼所				
末田 進彦	〃				

西山記念技術講座テキスト案内

書名	刊行年月	判型	ページ数	定価(円)
第5回 高ひずみ速度における金属単結晶の変形 高ひずみ速度における金属材料の挙動 熱間加工状態における高速変形 金属材料の高速加工	昭44. 8.21	B 5		300
第6回 鉄鋼における最近の計測と制御 無人工場へのアプローチ(ロボットと人間) 鉄鋼業における秤量	昭44.11.25			300
第7回 集合組織の形成機構 集合組織と異方性 変形の不均一と回復・再結晶 局所変形の測定技術	昭45. 2.24			300
第8回 高炉プロセス理論に関する2, 3の問題	昭45. 5.27			300
第9・10回 成形性からみた薄板の製造技術 薄板の成形性と材質特性 薄板の変形特性の測定技術 薄板のプレス成形研究の動向 プレス成形性の予測	昭46. 2.23	B 5		合本 1000
第11回 最近の厚板製造技術 海洋開発機器装置用鋼板 国産原子炉圧力容器用鋼板 造船用鋼材の発達とその諸問題 圧力容器および低温用鋼材の特性とその問題点				分冊 各300
第13回 構造用形鋼製造技術について 繰返し荷重を受ける建築構造物の弾塑性性状 長大橋と高張力鋼 構造用形鋼材に関する現状とその問題点	昭46.8. 26	B 5		合本 1300
第14回 スラッグメタル反応の電気化学的解析 高温固体電気化学と鉄鋼製錬の化学 溶融スラッグの物性と構造 冶金反応速度についての二, 三の問題	昭46.12. 8	B 5		分冊 400
第15回 溶接構造物の脆性破壊 破壊の基礎 脆性破壊 破壊の力学	昭47. 2.24	B 5		合本 1500
第16回 研究室の自動化の現状 研削所における実験, 観測, 計測の自動化 製鉄所における分析業務の合理化 鉄鋼業における検査工程の自動化 —その現状と展望—	昭47. 5.25	B 5		分冊 400
第17回 材料試験機の自動化 線および線材の製造技術の動向 線材および線の利用の現状と将来 線材の製造法 冷鍛用線材の問題点 高炭素鋼線の製造技術上の問題点 硬鋼線の調質	昭47. 8.29	B 5		合本のみ 2000

申込方法 書名, 送付先を明記, 代金前払いですので現金書留にてお申し込み下さい。
 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課